

# 状況に応じた危険予測ができ、 適切な行動選択をすることのできる生徒の育成

—デジタル地図検索機能を活用したグループワークを通して—

特別研修員 生徒指導、教育相談 高田 繁（高等学校教諭）

## 目指す生徒像

- ・日常生活の交通の場面において、状況に応じた危険予測ができる生徒
- ・交通事故を回避できるよう、適切な行動選択のできる生徒



### 【手立て2】 ICT端末の活用

- ・ **デジタル地図検索機能**で、場면을様々な角度から立体的に分析する
- ・ 表計算ソフトで意見の根拠を即時的に共有し、比較する

デジタル地図検索機能で立体的に危険予測をしよう!



班	自転車目線（主体・環境・車両要因が）〇〇なので、□□に気を付けよう。
B	信号待ちしている車があると、通行の時に道が狭く感じたり、電柱を避けると車にぶつかりそうになるので、慎重に行こう。
E	朝の時間帯は急いでいる車が多いから、横断歩道を通行する時も運転者とアイコンタクトを取って、事故を未然に防ごう。
班	自動車目線（主体・環境・車両要因が）〇〇なので、□□に気を付けよう。
B	歩道が狭く、電柱も邪魔な位置にあるので、自転車が当たってこないか心配。
F	高校生の登下校の時間帯は自転車が多いため、並列をして車道にはみ出していたり急に飛び出してきたりすることに気を付けよう。



### 【手立て1】 グループワークによる協働的な学習

- ・ 意見を共有し、場면을多面的に捉える
- ・ 話し合いを通して自他の意見をまとめ、グループの意見とその根拠を提示する



### 【生徒の実態】

自分本意な運転を優先してしまい、  
リスクの高い行動をしてしまっている。



### 【教師の願い】

自己管理能力を育成し、  
適切な行動選択を促したい！



### 【成果】

○ICT端末を活用し、立体的に場所や場面を捉えることで、より多面的に危険予測することができ、適切な行動選択をするための考え方を身に付けることができた。

○グループワークを通して、様々な観点の捉え方を共有することができた。特に、考えの根拠を提示することで、自他の意見が比較でき、他者のよいところを自分に取り入れ実生活に生かしていこうとする姿勢が見られた。

### 【課題】

○より実生活に生かせるよう、不慣れな場所や初見の場面においても、的確な行動選択ができるよう、危険予測の意識を日常的に高くもたせる必要がある。